

Title	校舎返還ニュース(No.2)
Author	安竹, 貴彦
Citation	大阪市立大学史紀要. 11 卷, p.76-77.
Issue Date	2018-10-31
ISSN	1884-3522
Type	Others
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学大学史資料室
Description	
DOI	

Placed on: Osaka City University

《史料7》

校舎返還ニュース No.2

校舎返還ニュース No.2

六月十七日 於外ム省

伊関国際協力局長及び福島特別調達庁長官と学生代表七名及び、左社代議士 亀田得治・吉田法晴との話し合いについて（要約）

代表団 商大の校舎は返還されないのか

伊 関 商大の事については米軍も、去年から、何とか返還し度いと考えていたが、保安隊が增強され、マリンの居る所がなくなった為、止むを得ず杉本町に入った。従って商大のケースは最も不幸なケースである。

代表団 それでは何処かほかに、マリンの入る兵舎を建てたらいいではないか

伊 関 二、三年前ならそれも出来たかも知れぬが、現在では新たに土地を接収して兵舎を建てる事は不可能だ。それに杉本町は和歌山、堺に連なる一連の軍事施設であって杉本町だけを返還するわけには行かない。

代表団 ではどうするつもりなのか

福 島 来年十月迄に返還される様交渉を進める。その間に、アーチを後に下げるとか、金網を校舎と接近しない様にするとか、チャアーチなどをとりのけてもらって入り込んでいる部分を真直ぐにするとか、門を別にしてもらと(ママ)か、或いは高商・予科の建物を日(国?)が買上げて運動場に校舎を増築したいと思っている。

(校舎の地図を出してさし示しながら)

代表団 市当局と、大阪特調との契約書には校舎を“病院として貸す”と云う一項目がある従って常識として考えても病院が解放されれば返してもらへると考えるのは当然である。

福 島 成程病院としては書いてあるかも知れないが、返すとは書いていない。

代表団 二月頃から杉本町では東側のグラウンドにいろいろ建築を始め、アーチをかきかえ先づ既成事実を作り、しかも、十六日にはマリーンが入ってしまった。それにも不拘日米合同委員会では今頃校舎を再び貸すとか貸さないとか接衝する事自体おかしいではないか

伊 関 それは、西南軍司令官の命令でやった事だ。

代表団 しかし極東軍司令官の命令でなければやれないのではないか。

伊 関 西南軍司令官としても予算も持っているし、やれない事はない。

代表団 現在、情勢が変わったからと云って引き続いて校舎を貸したならば例え、アメリカが来年の十月迄に返す事を承諾してもそれ迄にどんなにまた情勢が変わるかも知れないし、今校舎を貸す事を認めるならばその時には又認めねばならぬ事になる。此の際は是非返して欲しい

福 島 沈モク・・・とにかく日本政府を信用して欲しい。

代表団 貴方達はアメリカの都合ばかりを考えていて我々学生の立場を考えていない。我々が校舎が分散していてどんなに困っているか知っているか

伊 関 諸君らの事はよく知っている。恒藤学長からもよく聞いているし・・・

君達は何か我々がアメリカの手先とでもあるような云い方をするが我々も一生懸命やって来たし、今後も努力する^(ママ)。もりだ。

代表団 (特に左社の吉田法晴氏)

これ以上いくら話し合っても仕方がない。とにかく学生も若いし、非常に憤ガイしている。学生と兵隊との間に何か起る事も予想される。しかし成行きにまかすより外はない。

伊関・福島—沈黙—